

## B 企業

「女性の継続就業（育児休業等からの職場復帰など）に関する支援」と回答した人の割合が67.4%と最も高く、次いで「超過勤務削減などワーク・ライフ・バランスを促進させる取組」（41.3%）、「公正・透明な人事管理制度、評価制度の構築」（37.0%）の順となっている。

## 【性・年齢別】

性別に見ると、「女性のモチベーション（やる気・熱意）や職業意識を高めるための研修機会の付与」、「公正・透明な人事管理制度、評価制度の構築」と回答した人の割合は女性よりも男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「超過勤務削減などワーク・ライフ・バランスを促進させる取組」と回答した人の割合は、特に20歳代で62.2%、30歳代で52.5%と高くなっている。

図16-3 働く女性が更に活躍するために必要な取組（B 企業）

【総数、性別】

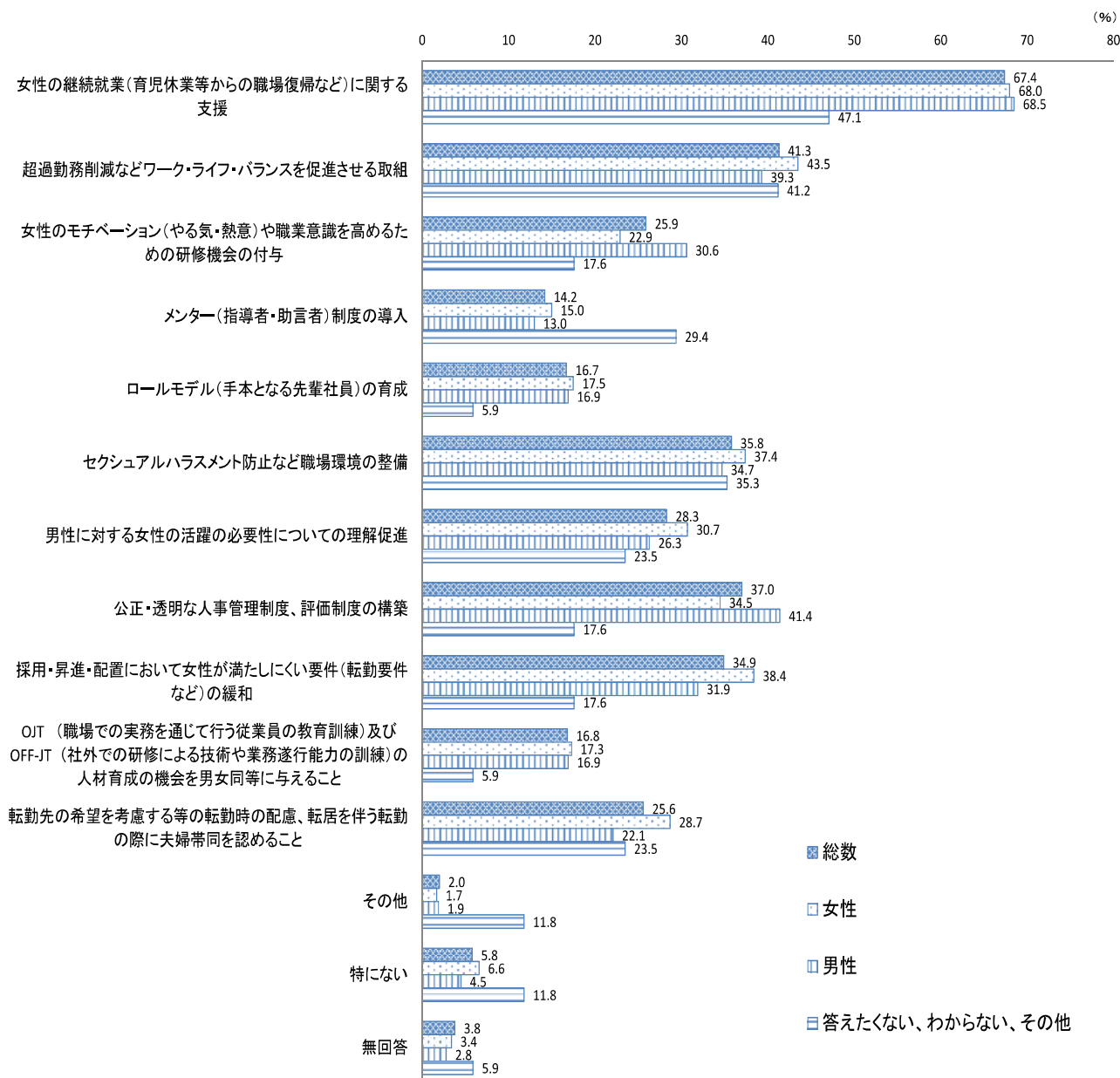
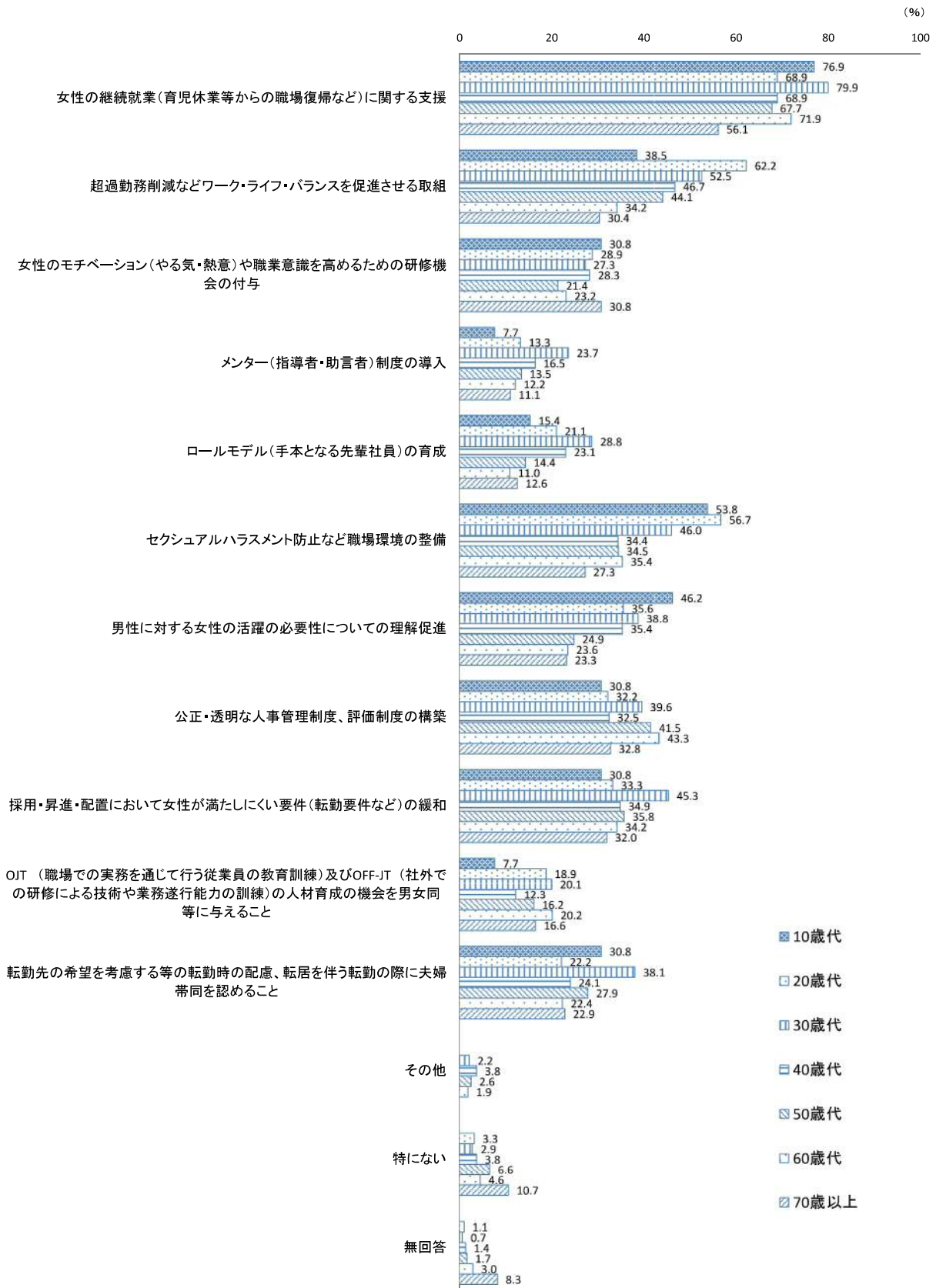


図16-4 働く女性が更に活躍するために必要な取組（B 企業）

【総数、年齢別】



1.7 身近な女性が研究者や技術者などの理工系分野を目指すことについて

“抵抗はない”（「全く抵抗はない」＋「あまり抵抗はない」以下同じ）と回答した人の割合は88.8%と高くなっている。“抵抗がある”（「少し抵抗がある」＋「とても抵抗がある」以下同じ）と回答した人の割合は1.6%と低くなっている。なお、「とても抵抗がある」はゼロである。

【性・年齢別】

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「全く抵抗はない」と回答した人の割合は、10歳代、70歳以上では他の年齢層より低くなっている。

図17-1 身近な女性が研究者や技術者などの理工系分野を目指すことについて

【総数、性別、年齢別】

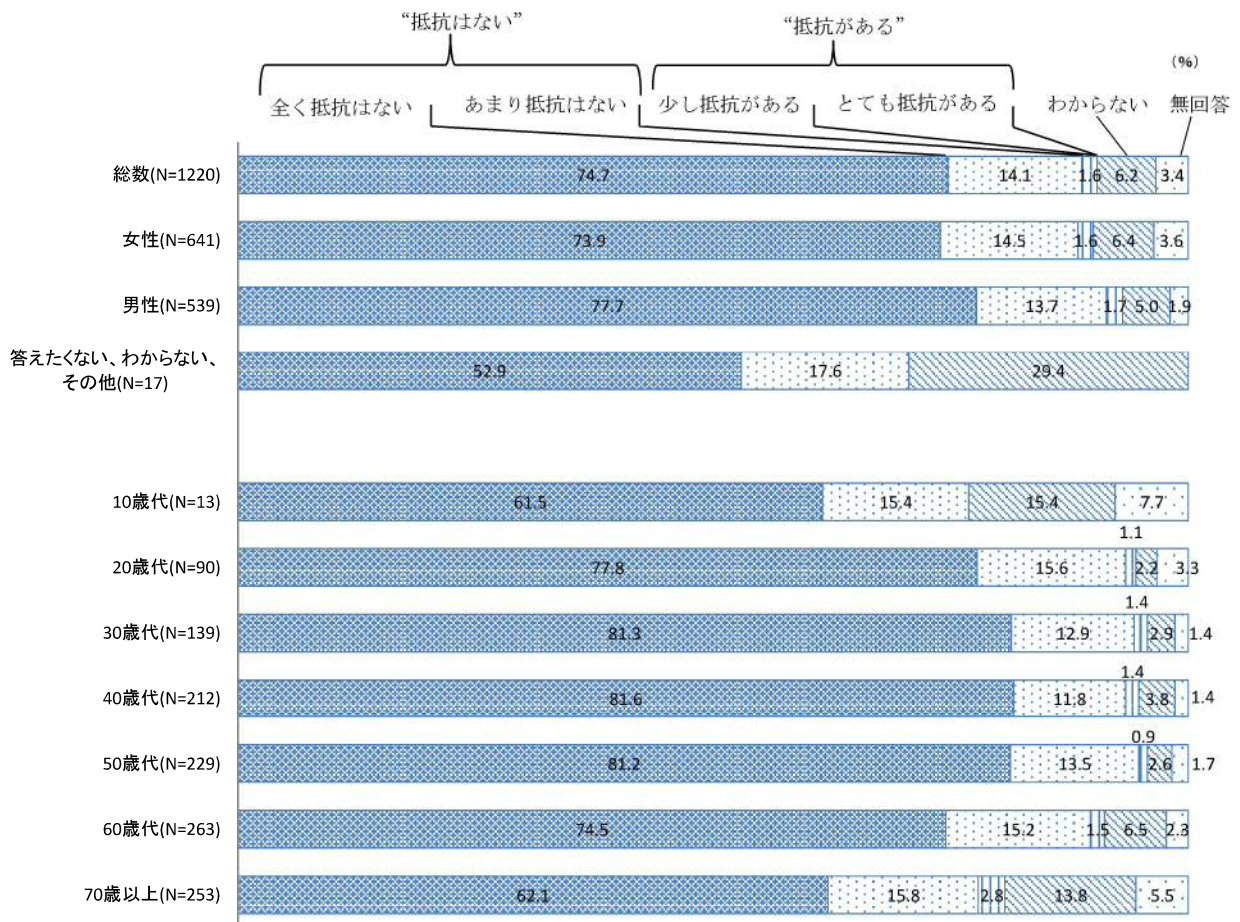


表17 身近な女性が研究者や技術者などの理工系分野を目指すことについて

		サンプル数	全く抵抗はない	あまり抵抗はない	少し抵抗がある	とても抵抗がある	わからない	無回答
総数		1220	911	172	19	-	76	42
		100.0	74.7	14.1	1.6	-	6.2	3.4
性別	女性	641	474	93	10	-	41	23
		100.0	73.9	14.5	1.6	-	6.4	3.6
	男性	539	419	74	9	-	27	10
		100.0	77.7	13.7	1.7	-	5.0	1.9
答えたくない、わからない、その他		17	9	3	-	-	5	-
		100.0	52.9	17.6	-	-	29.4	-
年齢別	10歳代	13	8	2	-	-	2	1
		100.0	61.5	15.4	-	-	15.4	7.7
	20歳代	90	70	14	1	-	2	3
		100.0	77.8	15.6	1.1	-	2.2	3.3
	30歳代	139	113	18	2	-	4	2
		100.0	81.3	12.9	1.4	-	2.9	1.4
	40歳代	212	173	25	3	-	8	3
	100.0	81.6	11.8	1.4	-	3.8	1.4	
50歳代	229	186	31	2	-	6	4	
	100.0	81.2	13.5	0.9	-	2.6	1.7	
60歳代	263	196	40	4	-	17	6	
	100.0	74.5	15.2	1.5	-	6.5	2.3	
70歳以上	253	157	40	7	-	35	14	
	100.0	62.1	15.8	2.8	-	13.8	5.5	

### 「抵抗はない」と回答した理由

抵抗はないと回答した人に理由を聞いたところ、「職業と性別は関係ないから」と回答した人の割合が92.8%と最も高く、次いで「理工系分野で活躍している女性が増えてきているから」(24.1%)、「理工系分野に女性が求められており、就職がしやすいから」(7.7%)の順となっている。

#### 【性・年齢別】

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、70歳以上では「理工系分野に女性が求められており、就職がしやすいから」、「理工系分野で活躍している女性が増えてきているから」、「家庭をもっても、理工系分野の職業なら両立できるから」と回答した人の割合が、他の年齢層よりも高くなっている。

図17-2 身近な女性が研究者や技術者などの理工系分野を目指すことについて  
（「抵抗はない」と回答した理由）【総数、性別】

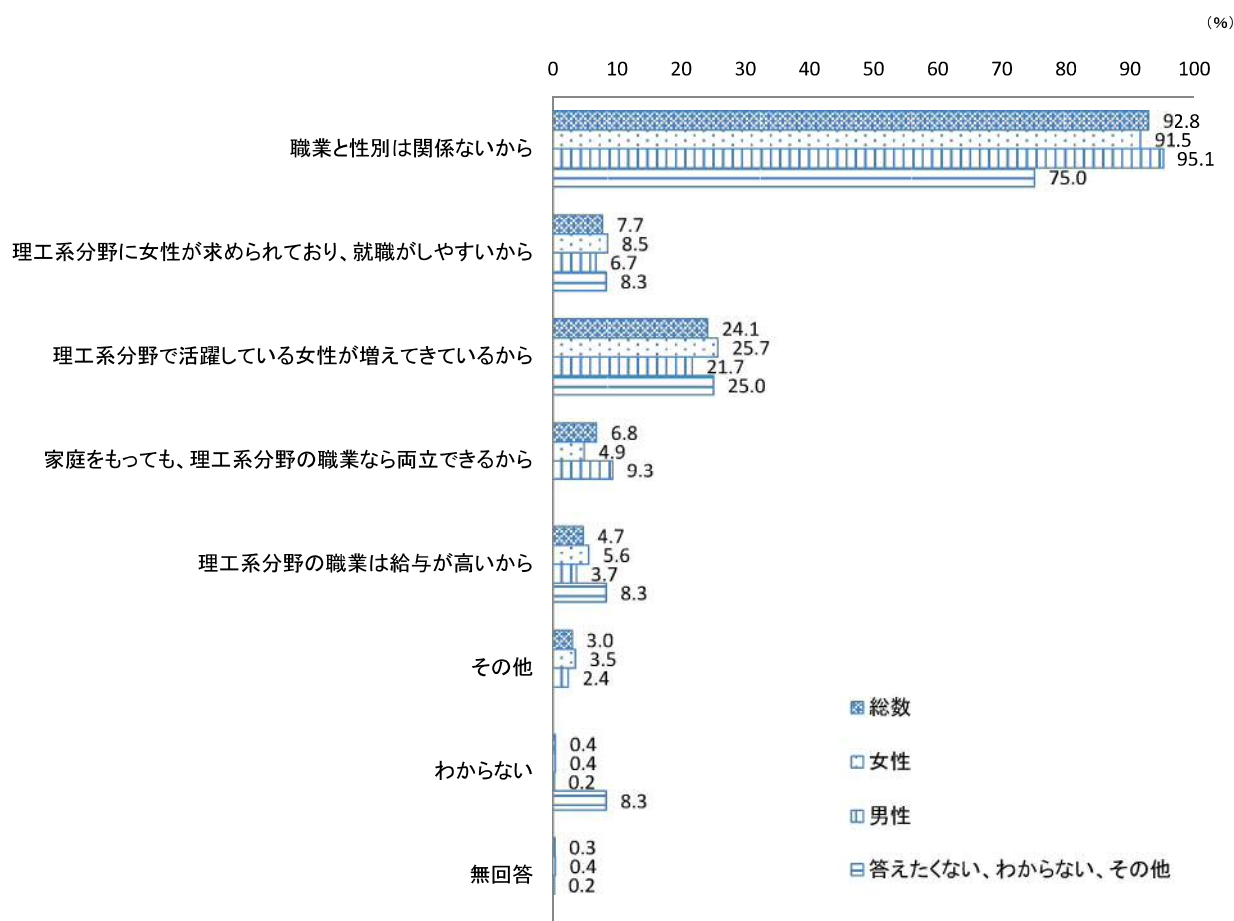
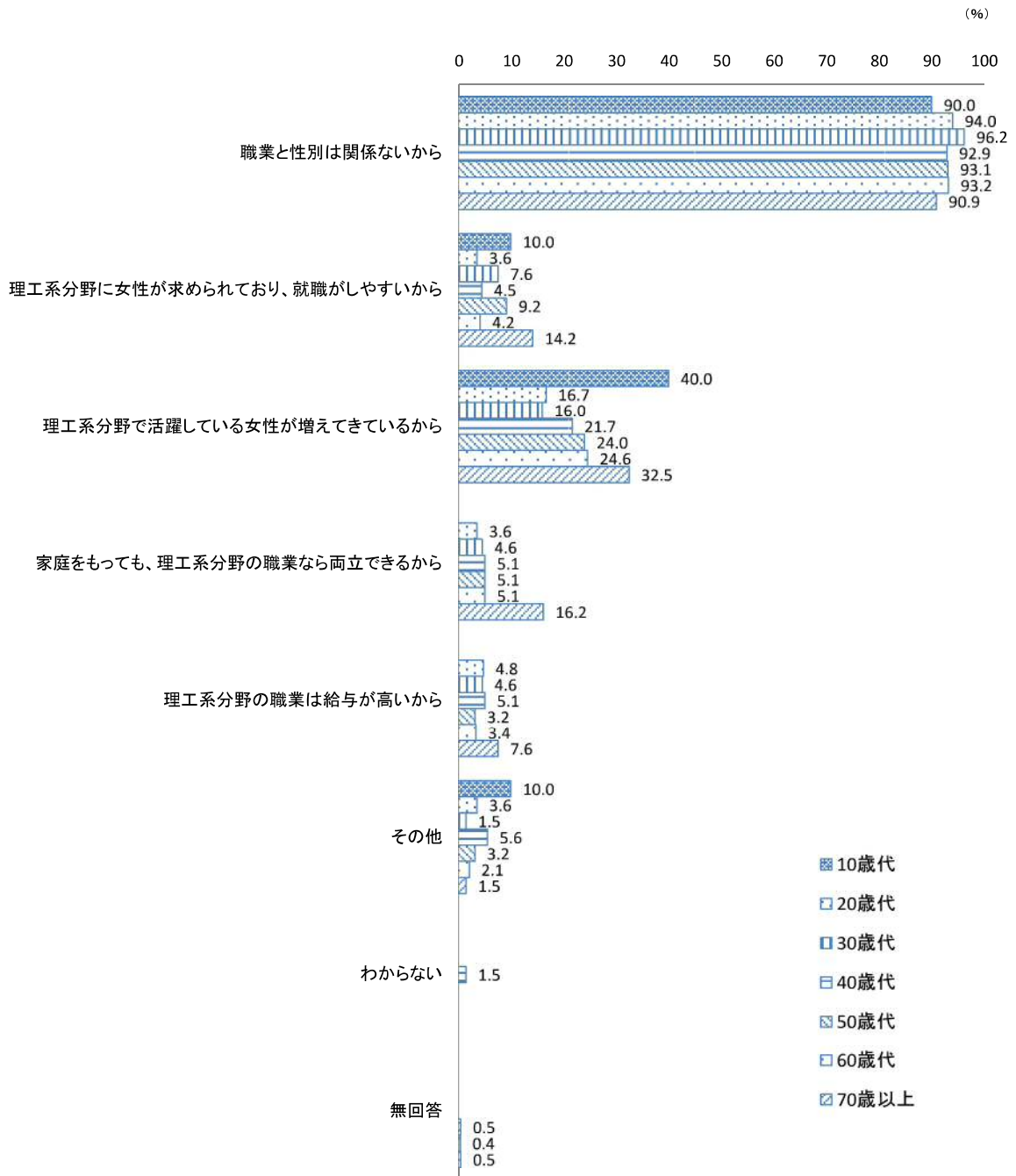


図17-3 身近な女性が研究者や技術者などの理工系分野を目指すことについて  
 (“抵抗はない”と回答した理由)【年齢別】



※抵抗があると回答した人は19件にとどまり、有意性に乏しいことから理由については掲載しない。

## ＜仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について＞

### 18 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で優先すること

#### A 希望として

「仕事」と「家庭生活」とともに優先したい」と回答した人の割合が35.2%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい（22.1%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立したい（18.9%）の順となっている。

#### 【性・年齢別】

性別に見ると、「仕事」と「家庭生活」とともに優先したい」と回答した人の割合は、女性（33.4%）よりも男性（38.8%）の方が高くなっている。これに対し、「家庭生活」を優先したい」と回答した人の割合は男性（16.5%）よりも女性（27.6%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「仕事」と「家庭生活」とともに優先したい」と回答した人の割合は、30歳代（36.0%）、40歳代（39.6%）が他の年齢層よりも高くなっている。

図18-1 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で優先すること（A 希望として）

【総数、性別】

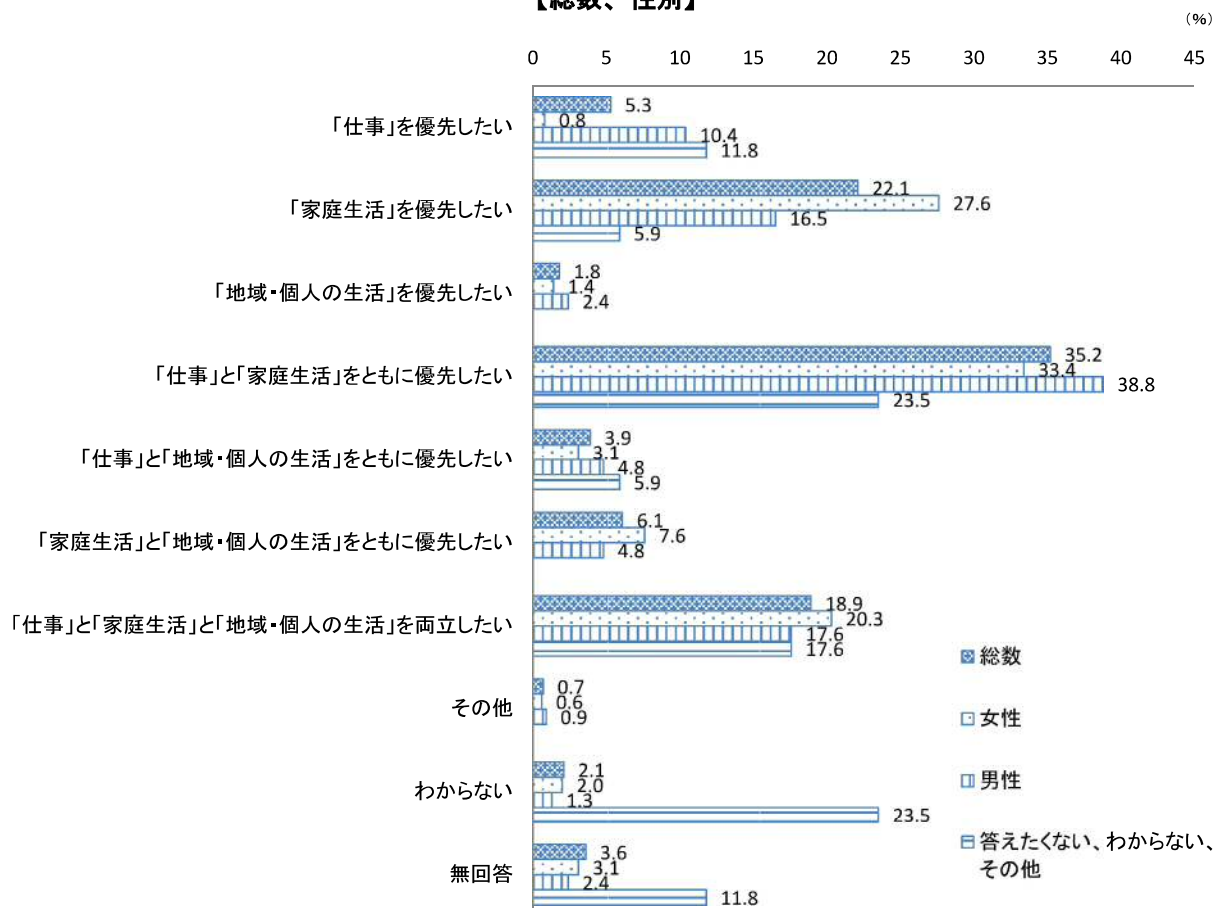
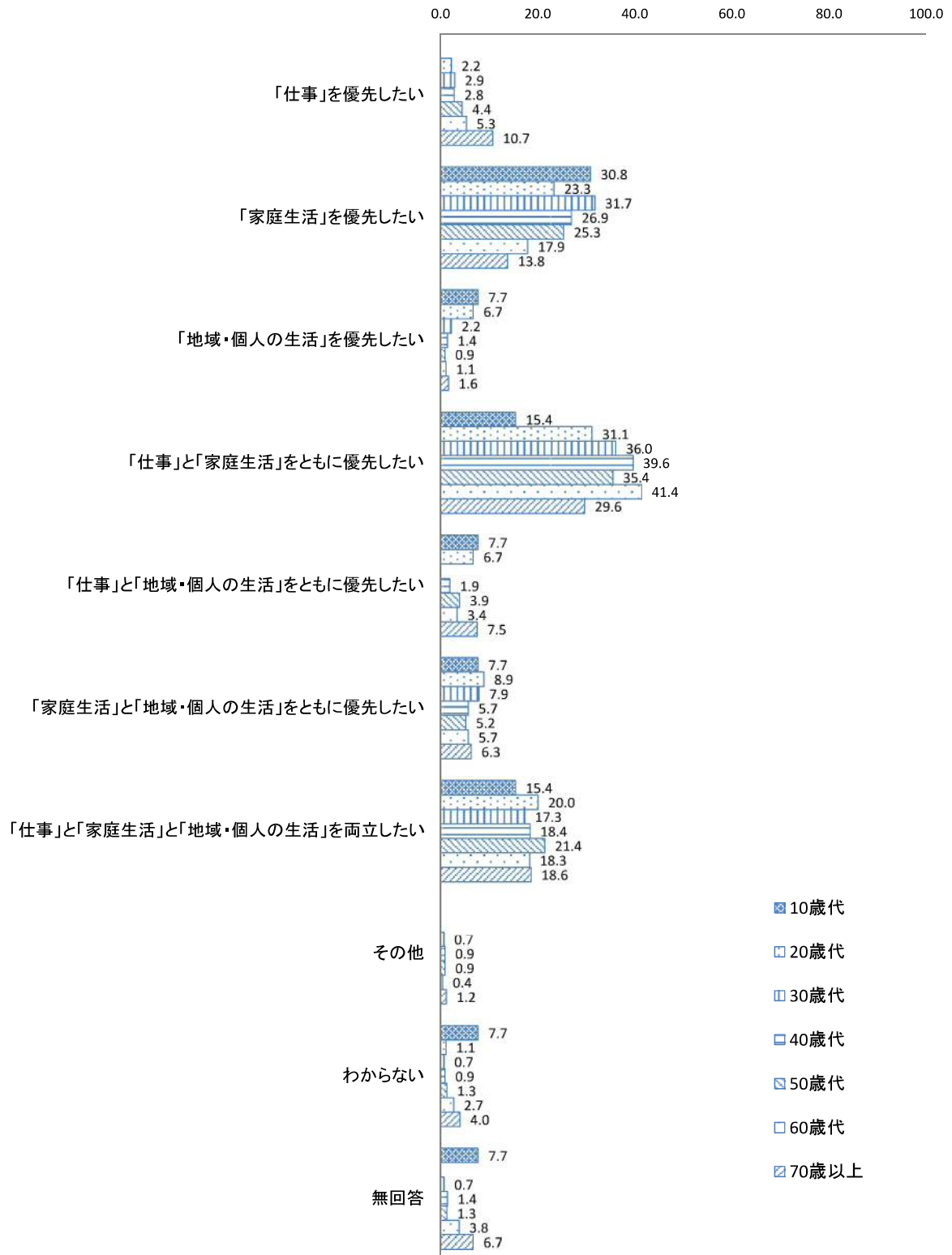


図18-2 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で優先すること（A 希望として）

【年齢別】

(%)

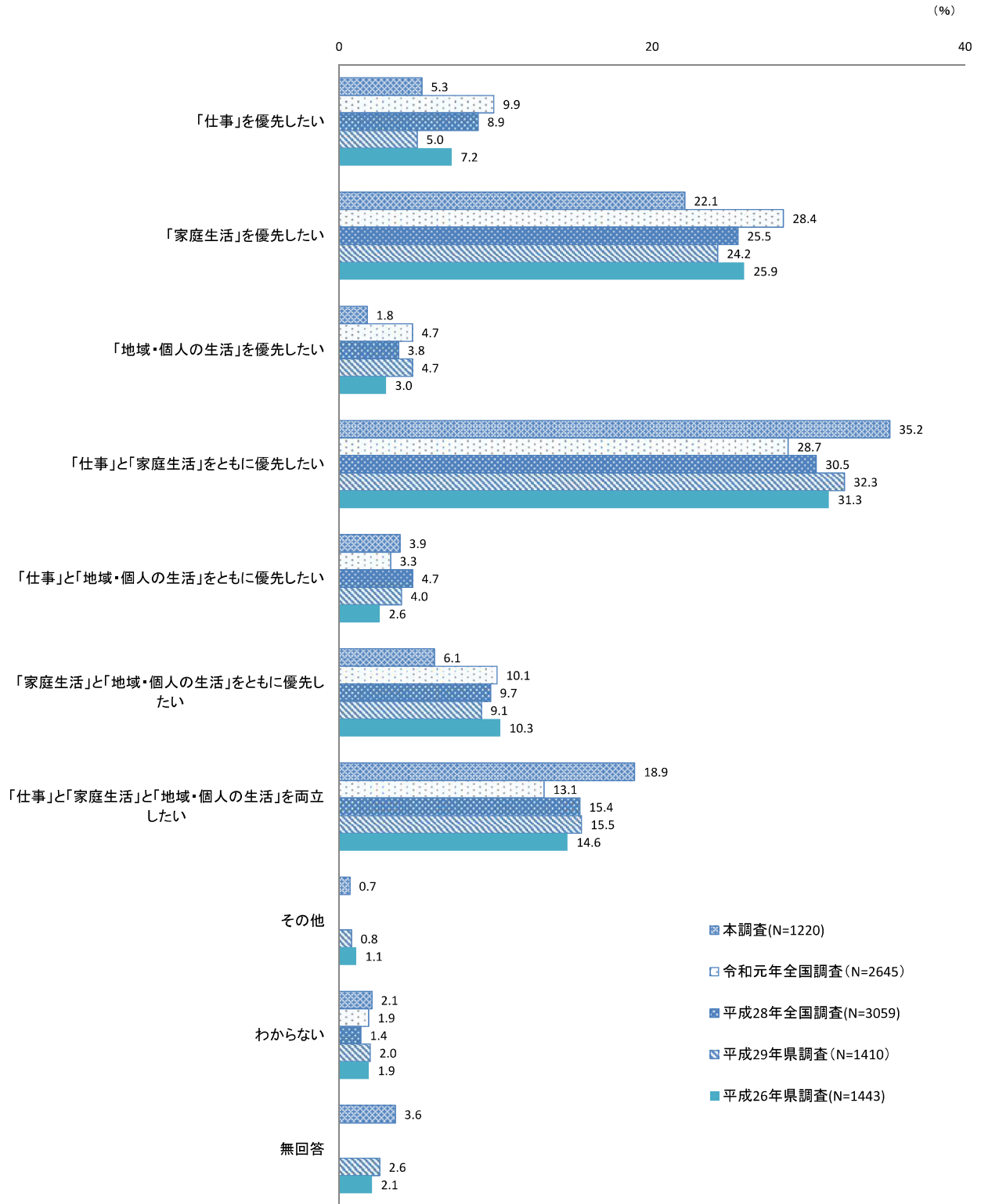




【他調査との比較】

他調査と比較すると、全ての調査で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も高く、なかでも本調査が35.2%と最も高くなっている。

図18-3 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で優先すること（A 希望として）  
【他調査との比較】



## B 現実として

「仕事」を優先している」と回答した人の割合が33.0%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先している」（23.5%）、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」（21.1%）の順となっている。

### 【性・年齢別】

性別に見ると、「仕事」を優先している」と回答した人の割合が女性（19.7%）よりも男性（49.9%）の方が高くなっている。一方、「家庭生活」を優先している」と回答した人の割合は男性（9.8%）よりも女性（35.7%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「仕事」を優先している」と回答した人の割合は、20歳代では他の年齢層に比べ高くなっている。

図18-4 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で優先すること（B 現実として）  
【総数、性別】

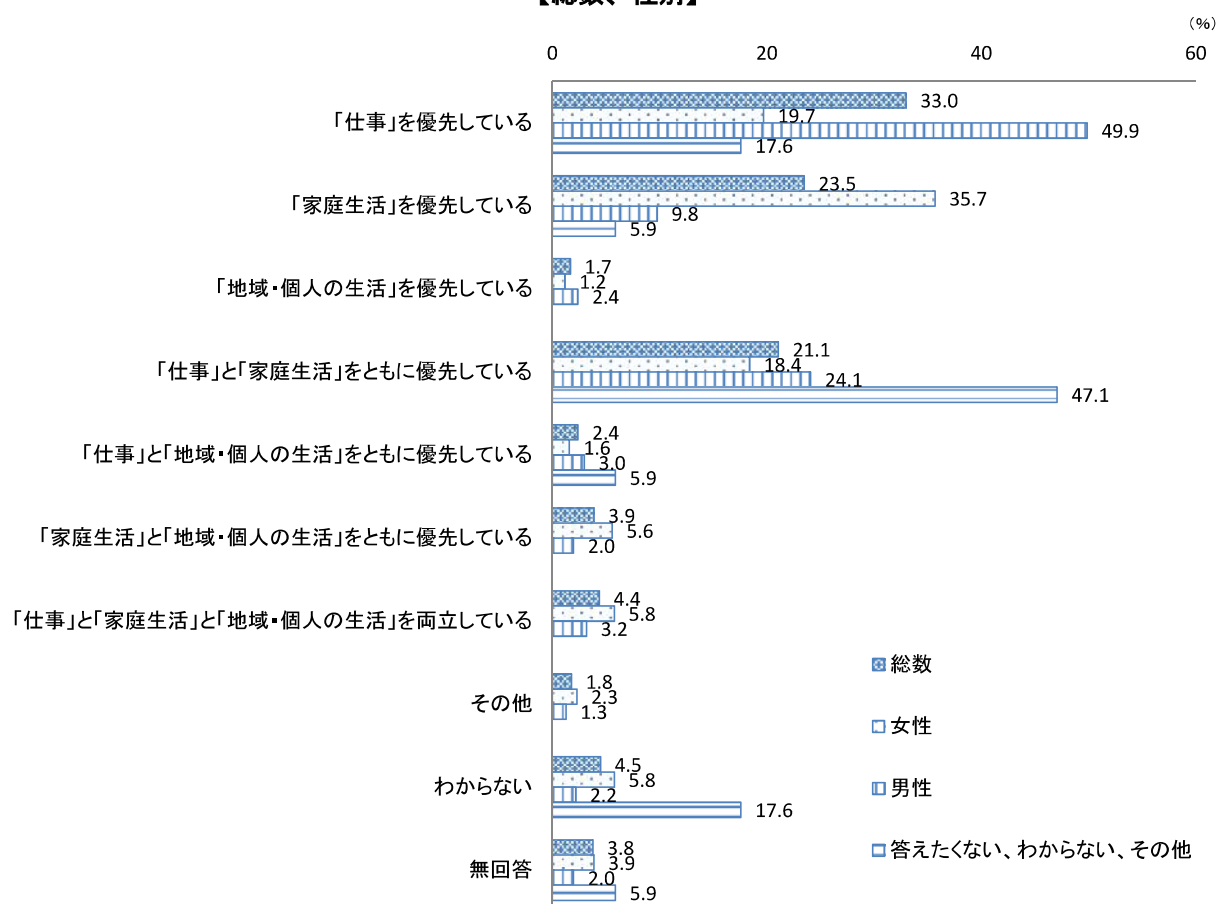
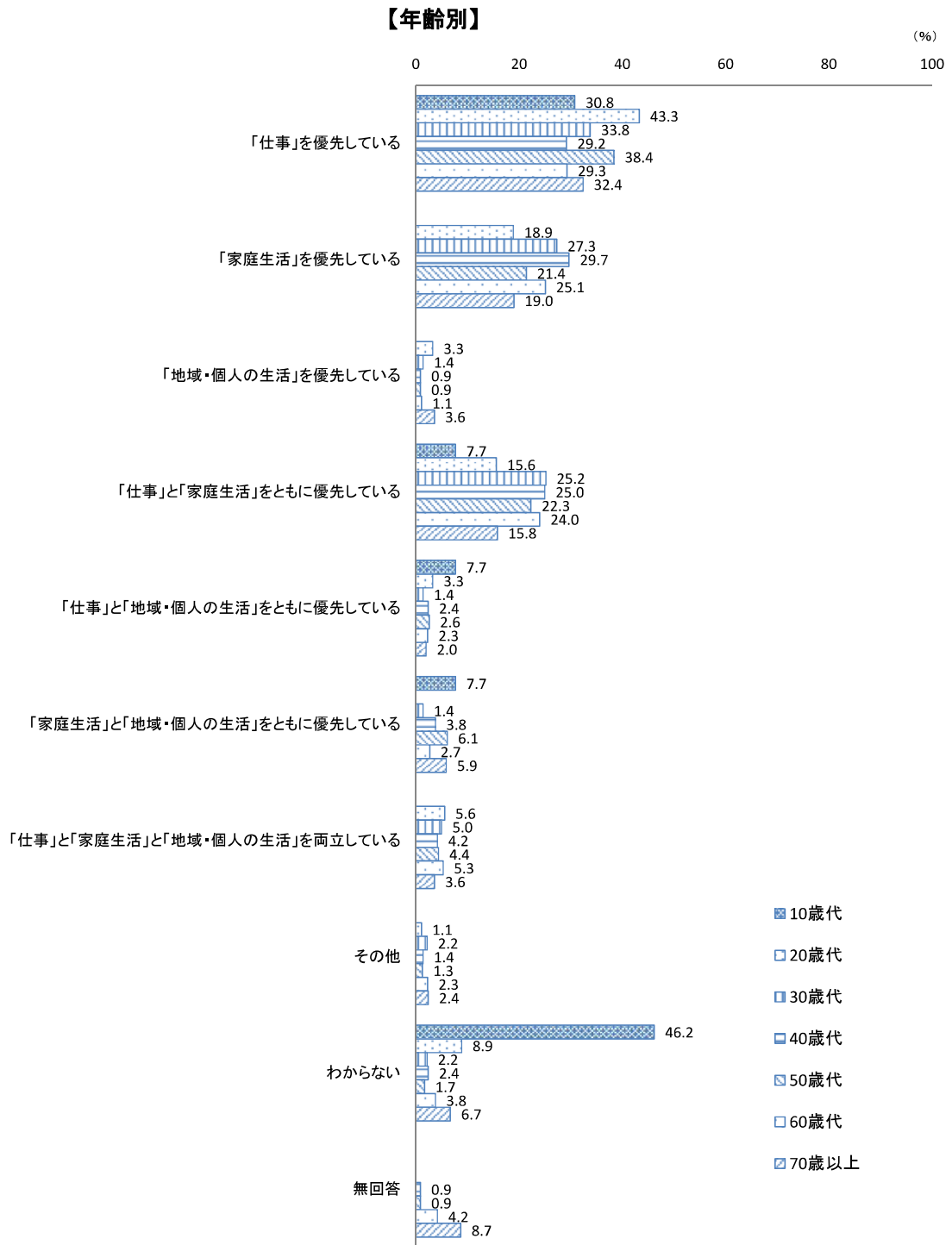


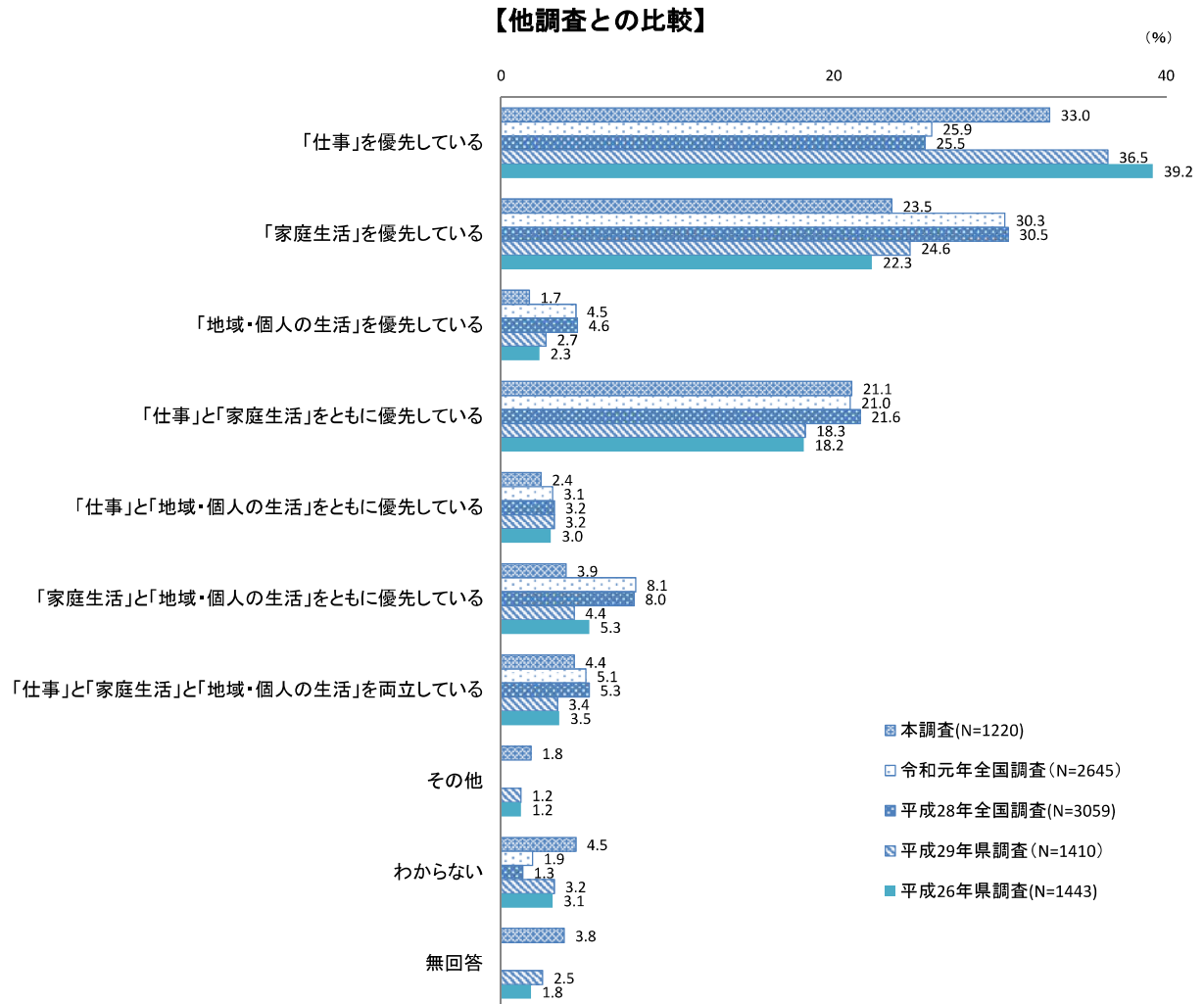
図18-5 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で優先すること（B 現実として）



【他調査との比較】

令和元年全国調査と比較すると、「仕事」を優先している」と回答した人の割合は本調査の方が高く、「家庭生活」を優先している」と回答した人の割合は全国調査の方が高くなっている。

図18-6 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で優先すること（B 現実として）



## 1.9 地域活動への参加経験

「参加したことはない」と回答した人の割合が33.4%と最も高く、次いで「かつて参加していたが現在は中止している」(31.7%)、「現在参加している」(30.9%)の順となっている。

## 【性・年齢別】

性別に見ると、「かつて参加していたが現在は中止している」と回答した人の割合は男性より女性の方が高くなっている。また、「参加したことはない」と回答した人の割合は女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「参加したことはない」と回答した人の割合は、20歳代が最も高く、若い年齢層ほど、概ね割合が高くなっている。

図19-1 地域活動への参加経験

【総数、性別、年齢別】

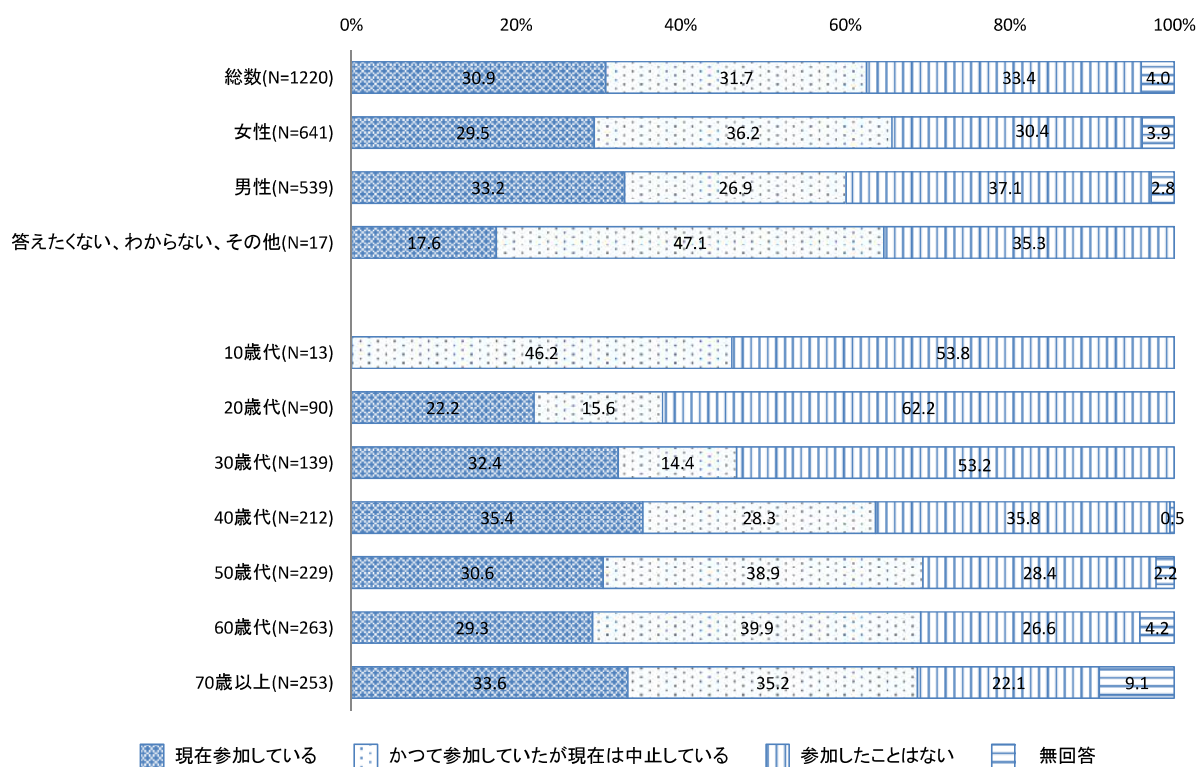


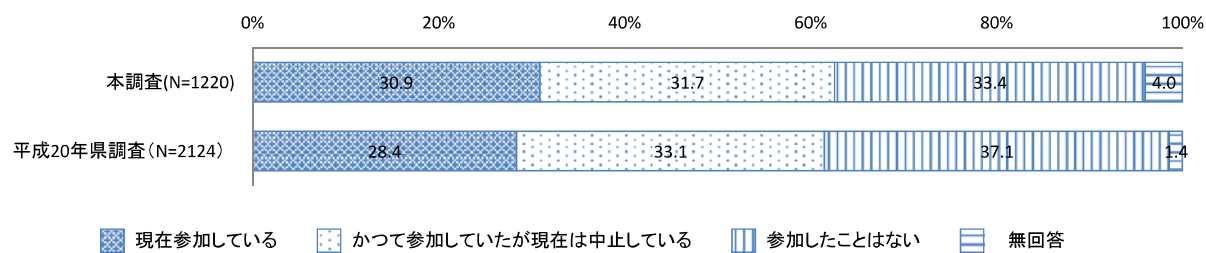
表19 地域活動への参加経験【総数、性別、年齢別】

		サンプル数	現在参加している	かつて参加していたが現在は中止している	参加したことはない	無回答
総数		1220 100.0	377 30.9	387 31.7	407 33.4	49 4.0
性別	女性	641 100.0	189 29.5	232 36.2	195 30.4	25 3.9
	男性	539 100.0	179 33.2	145 26.9	200 37.1	15 2.8
	答えたくない、わからない、その他	17 100.0	3 17.6	8 47.1	6 35.3	- -
年齢別	10歳代	13 100.0	- -	6 46.2	7 53.8	- -
	20歳代	90 100.0	20 22.2	14 15.6	56 62.2	- -
	30歳代	139 100.0	45 32.4	20 14.4	74 53.2	- -
	40歳代	212 100.0	75 35.4	60 28.3	76 35.8	1 0.5
	50歳代	229 100.0	70 30.6	89 38.9	65 28.4	5 2.2
	60歳代	263 100.0	77 29.3	105 39.9	70 26.6	11 4.2
	70歳以上	253 100.0	85 33.6	89 35.2	56 22.1	23 9.1

## 【他調査との比較】

平成 20 年県調査と比較すると、「現在参加している」と回答した人の割合が高くなっている。一方、「かつて参加していたが現在は中止している」、「参加したことはない」と回答した人の割合は低くなっている。

図 19-2 地域活動への参加経験  
【他調査との比較】



### 「現在（今までに）参加した活動」

現在までに参加してきた活動としては、「町内会・自治会」（62.6%）が高く、次いで「PTA・子ども会」（47.8%）、「教養・趣味・スポーツのサークル」（37.3%）の順となっている。

性別に見ると「PTA・子ども会」と回答した人の割合は男性（23.5%）より女性（67.0%）の方が高くなっている。「教養・趣味・スポーツのサークル」も男性（30.9%）より女性（42.0%）の方が高くなっている。一方、「町内会・自治会」と回答した人の割合は女性（57.2%）より男性（69.4%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、40歳代、50歳代は「PTA・子ども会」と回答した人の割合は、それぞれ60.0%、58.5%と高くなっている。

図19-3 地域活動への参加経験（参加した活動）

【総数、性別】

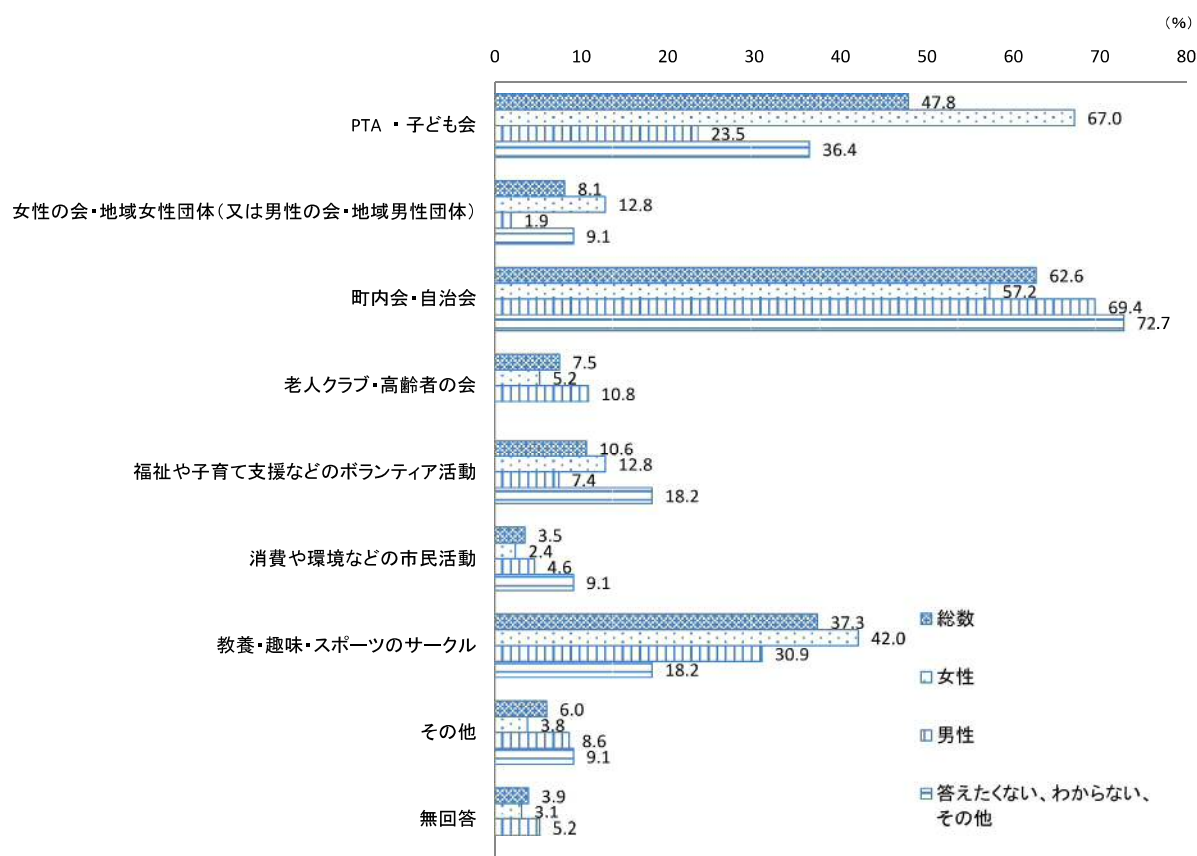
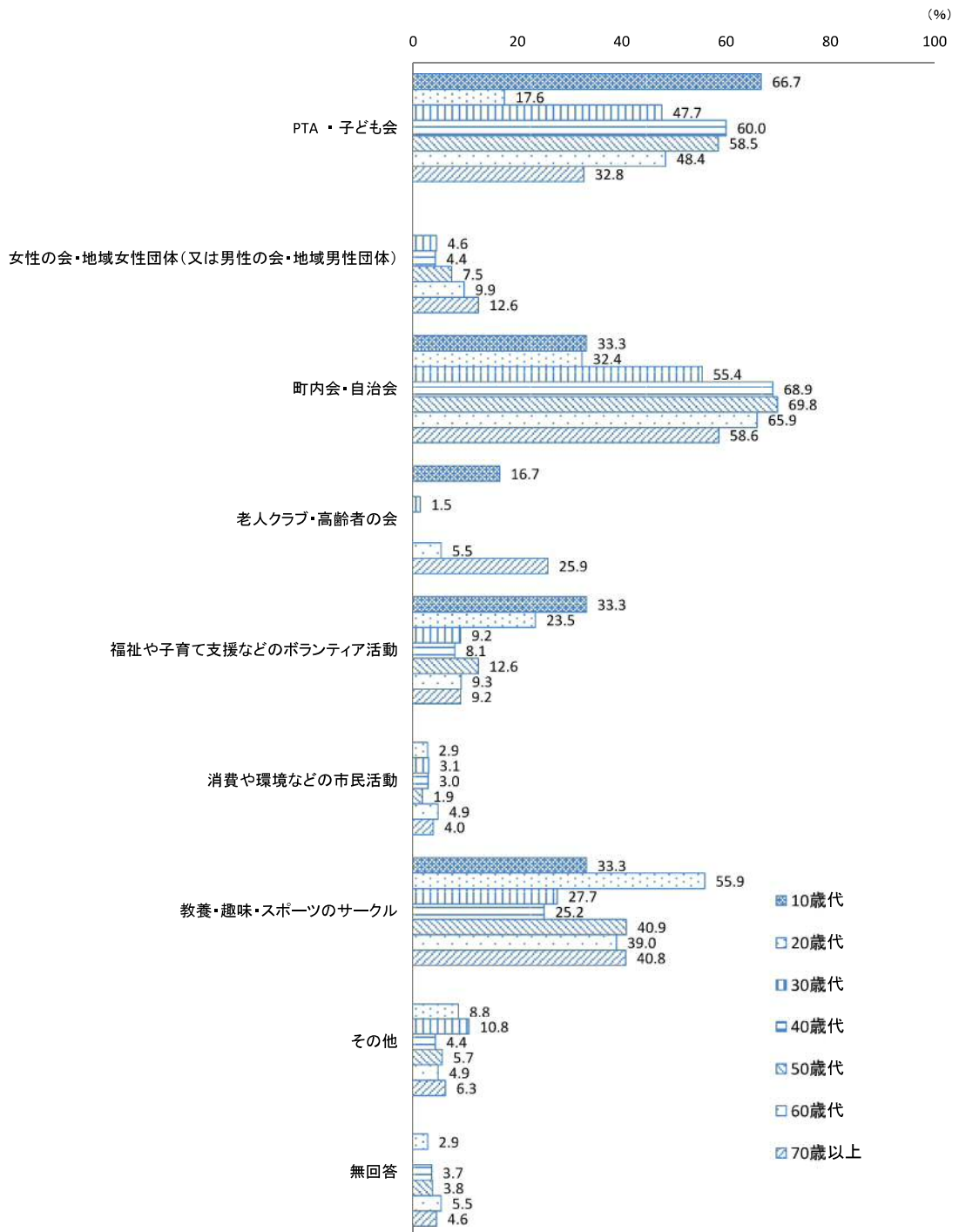




図19-4 地域活動への参加経験（参加した活動）

【年齢別】

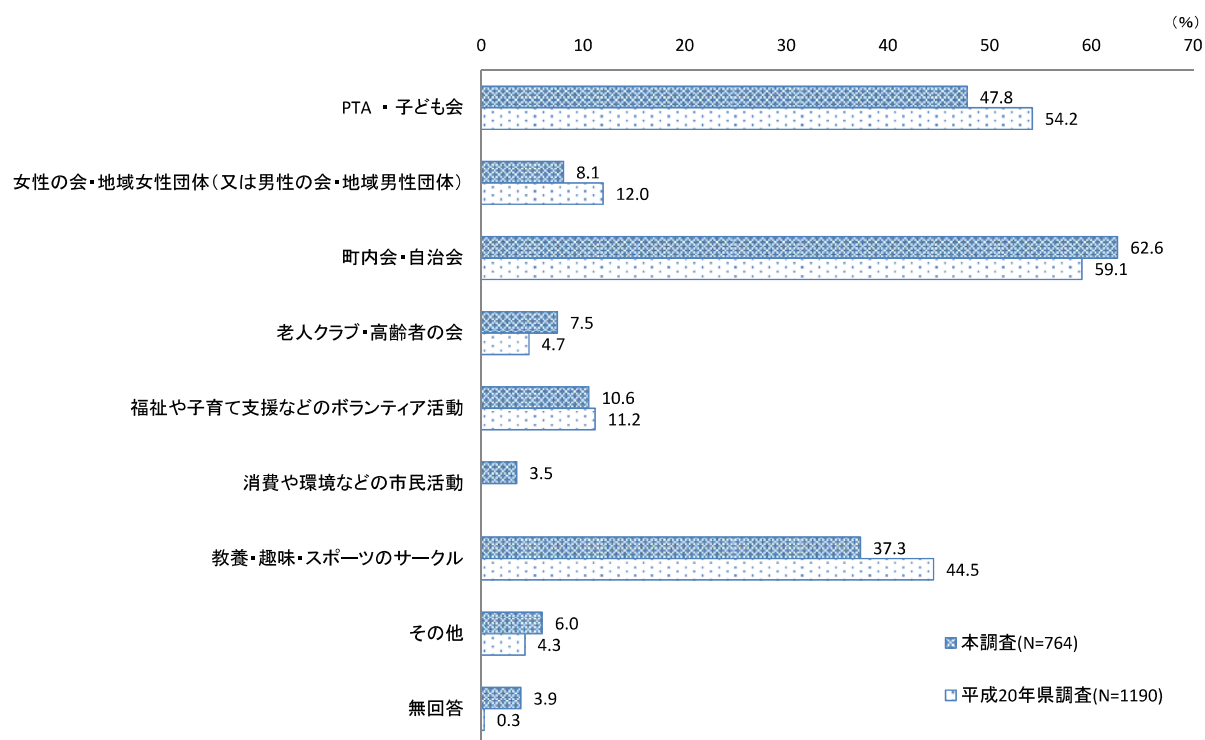


## 【他調査との比較】

平成20年県調査と比較すると、「町内会・自治会」と回答した人の割合は高くなっている。一方、「教養・趣味・スポーツのサークル」、「PTA・子供会」と回答した人の割合は低くなっている。

図19-5 地域活動への参加経験（参加した活動）

## 【他調査との比較】



## 「今後又は引き続き参加したい活動」

今後又は引き続き参加したい活動としては、「教養・趣味・スポーツのサークル」と回答した人の割合が41.6%と最も高くなっており、次いで「参加したいとは思わない」と回答した人の割合が28.9%となっている。

性別に見ると、「町内会・自治会」と回答した人の割合は女性（10.9%）より男性（23.2%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、30歳代、40歳代では「参加したいとは思わない」と回答した人の割合が「教養・趣味・スポーツのサークル」よりも高くなっている。

図19-6 地域活動への参加経験（今後又は引き続き参加したい活動）

【総数、性別】

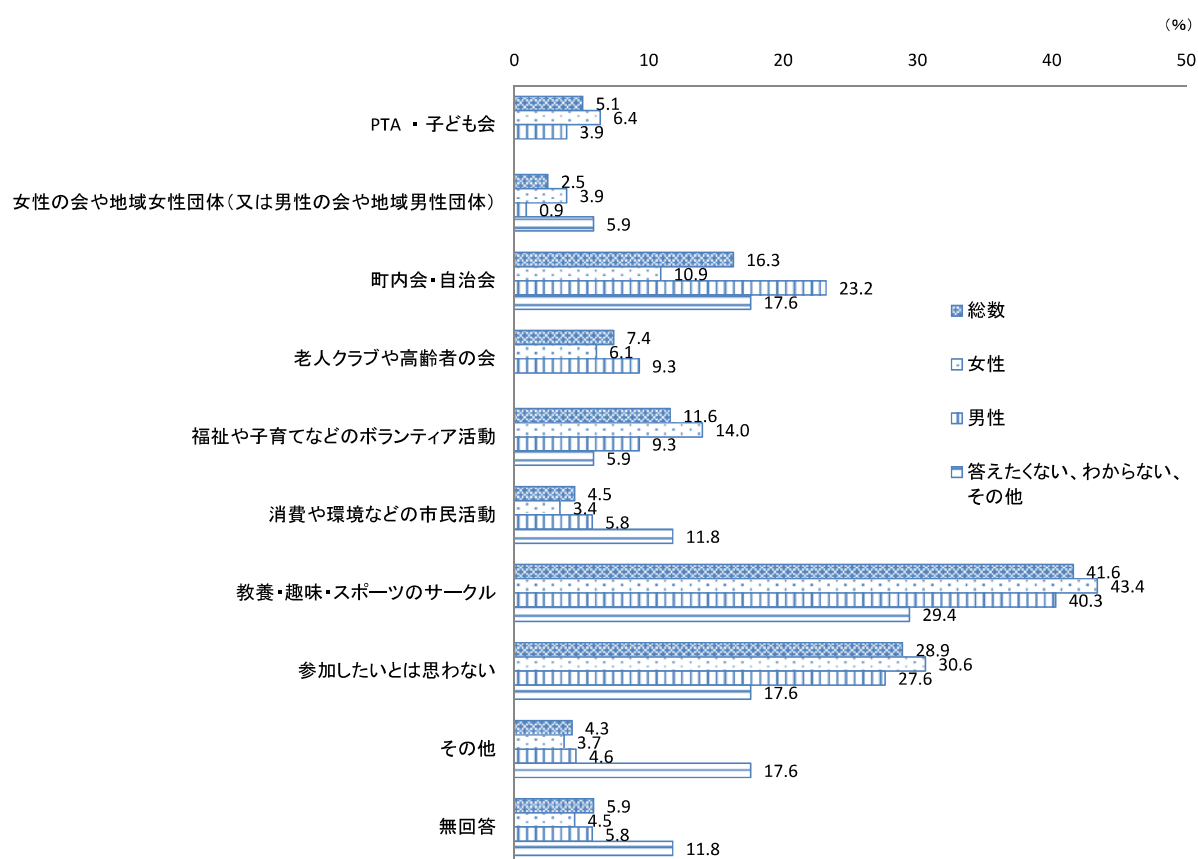
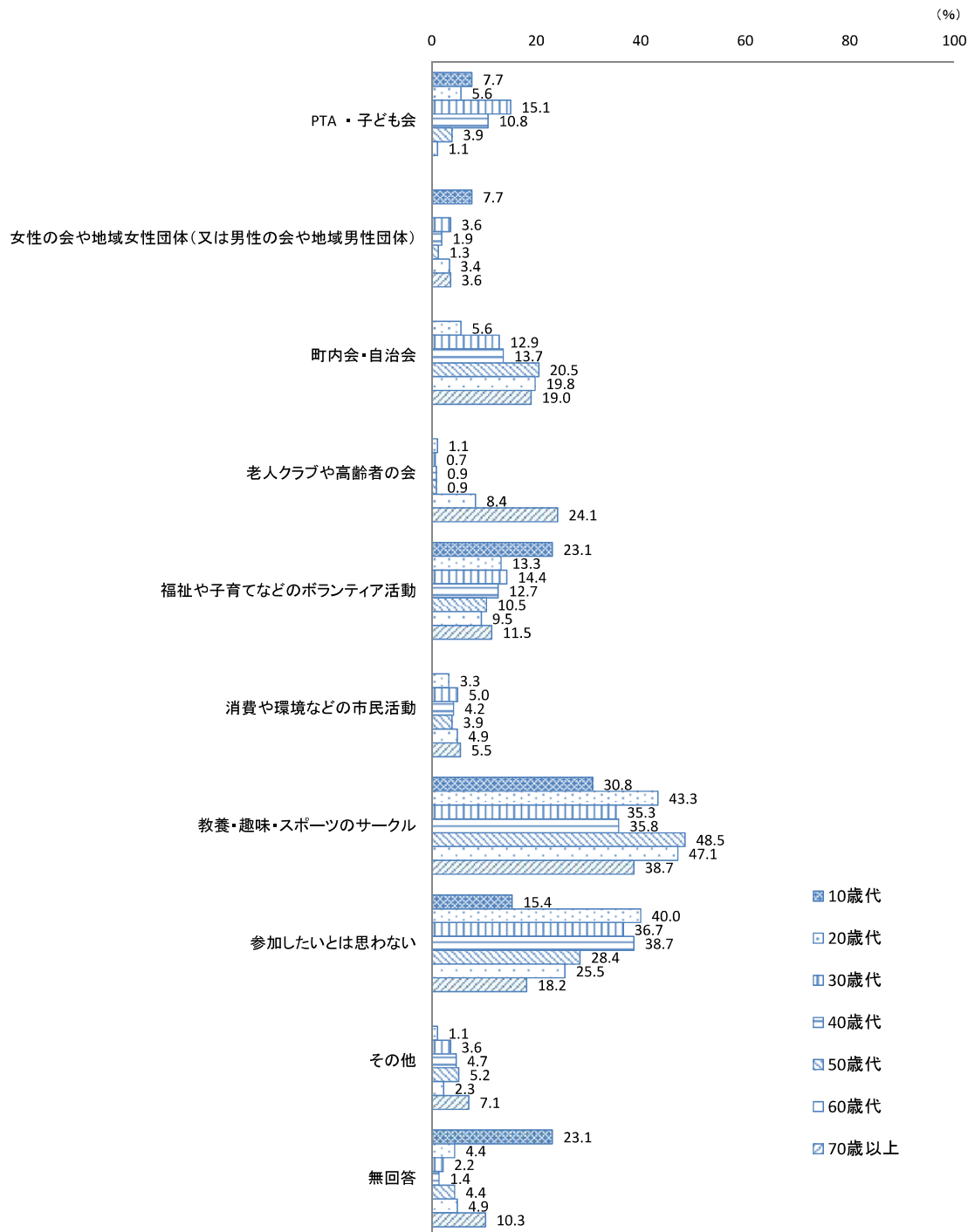


図19-7 地域活動への参加経験（今後又は引き続き参加したい活動）

【年齢別】

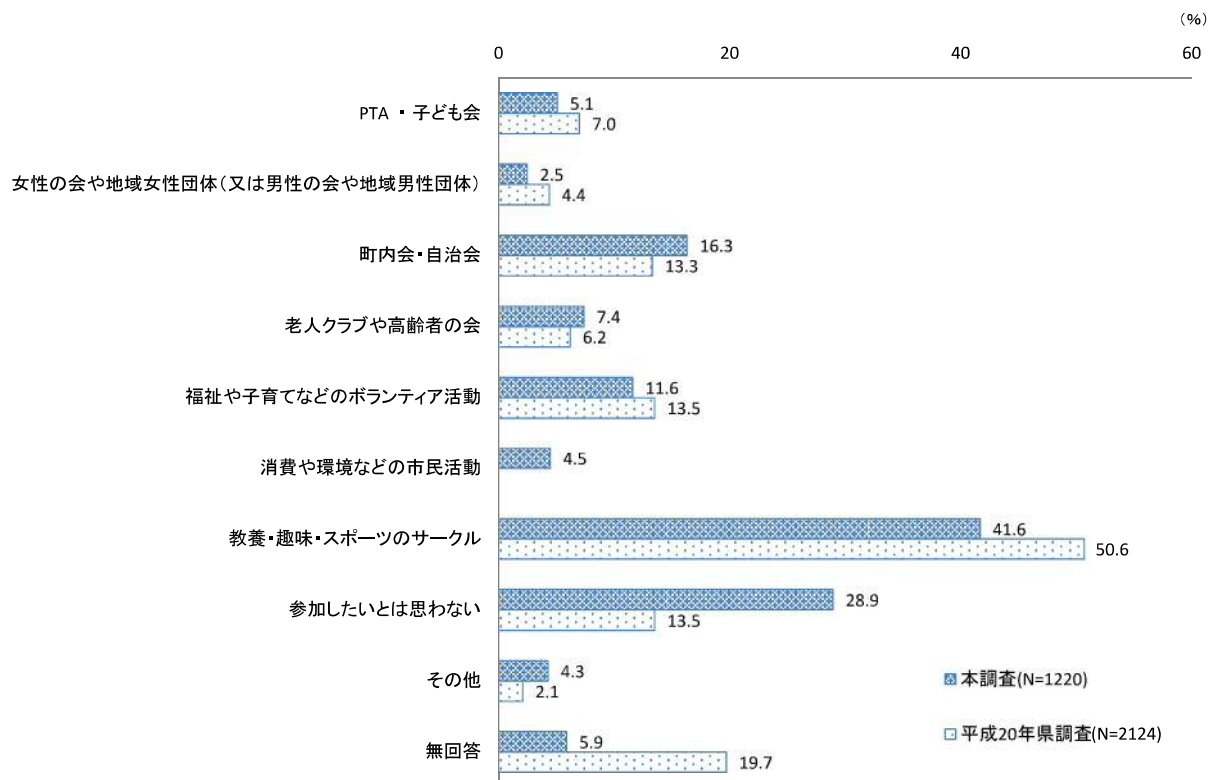


## 【他調査との比較】

平成20年全国調査と比較すると、「教養・趣味・スポーツのサークル」と回答した人の割合は低くなっている。一方、「参加したいとは思わない」と回答した人の割合は高くなっている。

図19-8 地域活動への参加経験（今後又は引き続き参加したい活動）

## 【他調査との比較】



## 20 男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと

「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と回答した人の割合が57.5%と最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(56.9%)、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」(46.1%)の順となっている。

### 【性・年齢別】

性別に見ると、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」と回答した人の割合は男性よりも女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、多くの項目で、年齢層が若いほど、回答した人の割合が高くなる傾向が見られる。

図20-1 男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと  
【総数、性別】

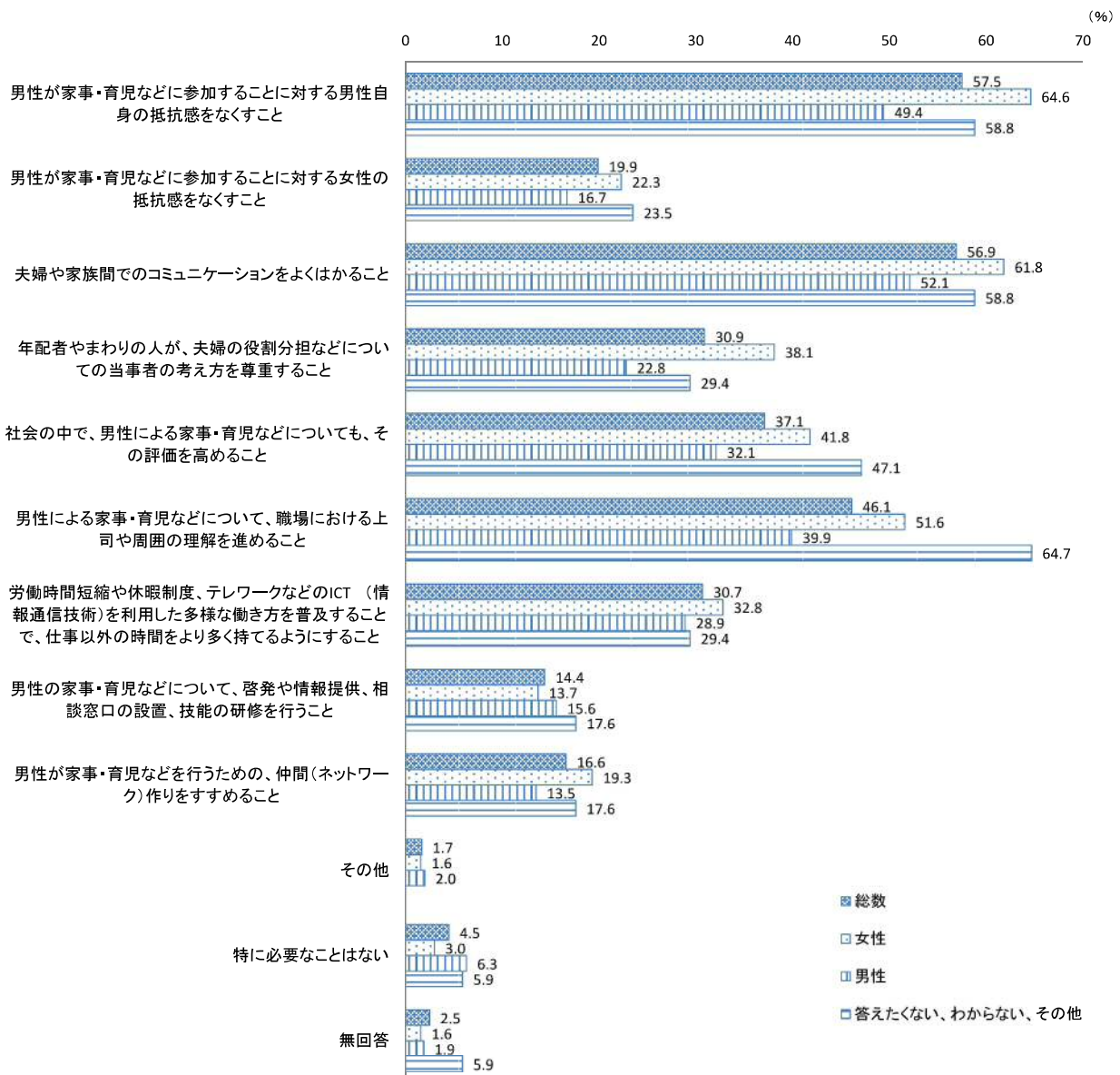
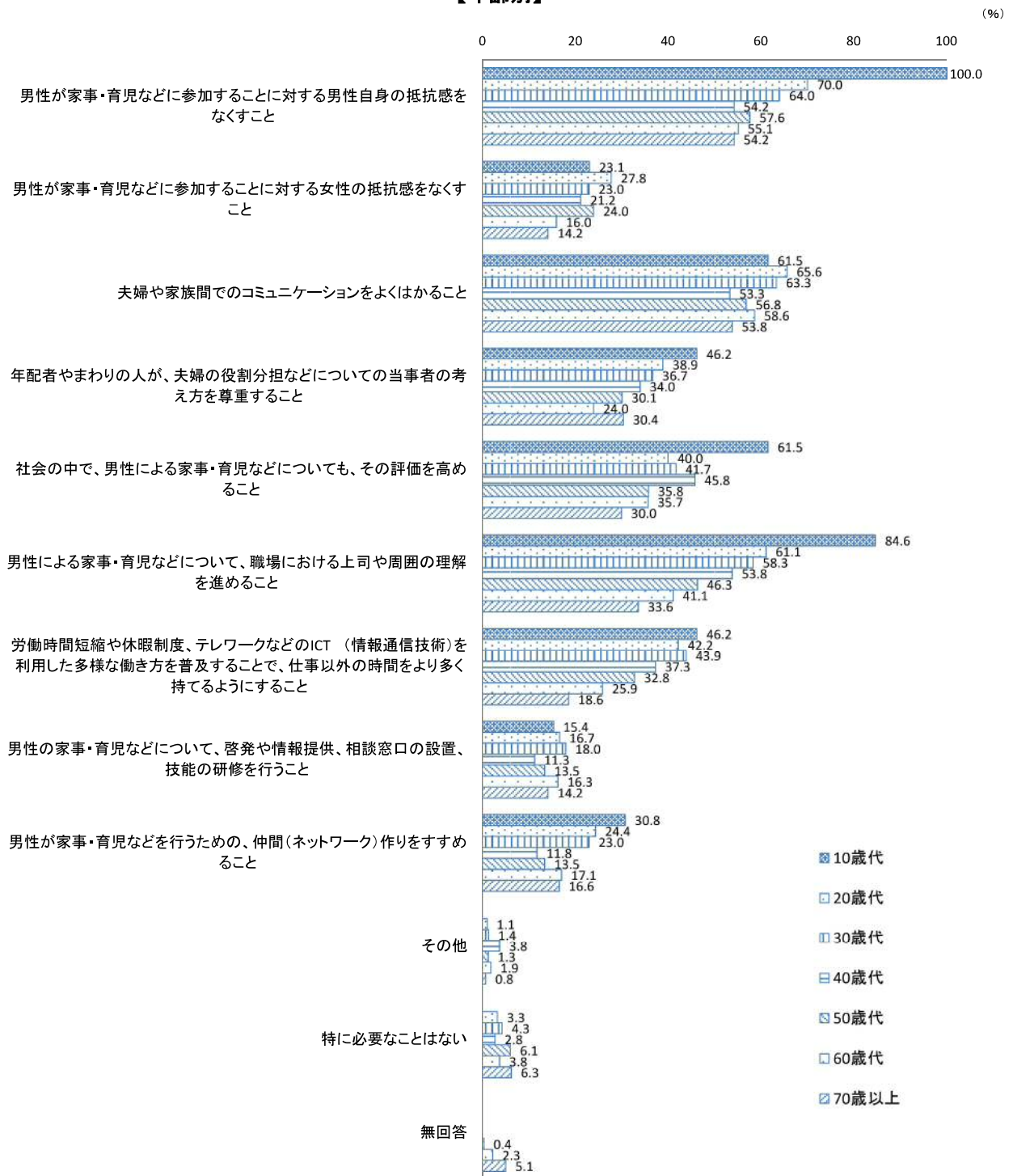


図20-2 男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと【年齢別】

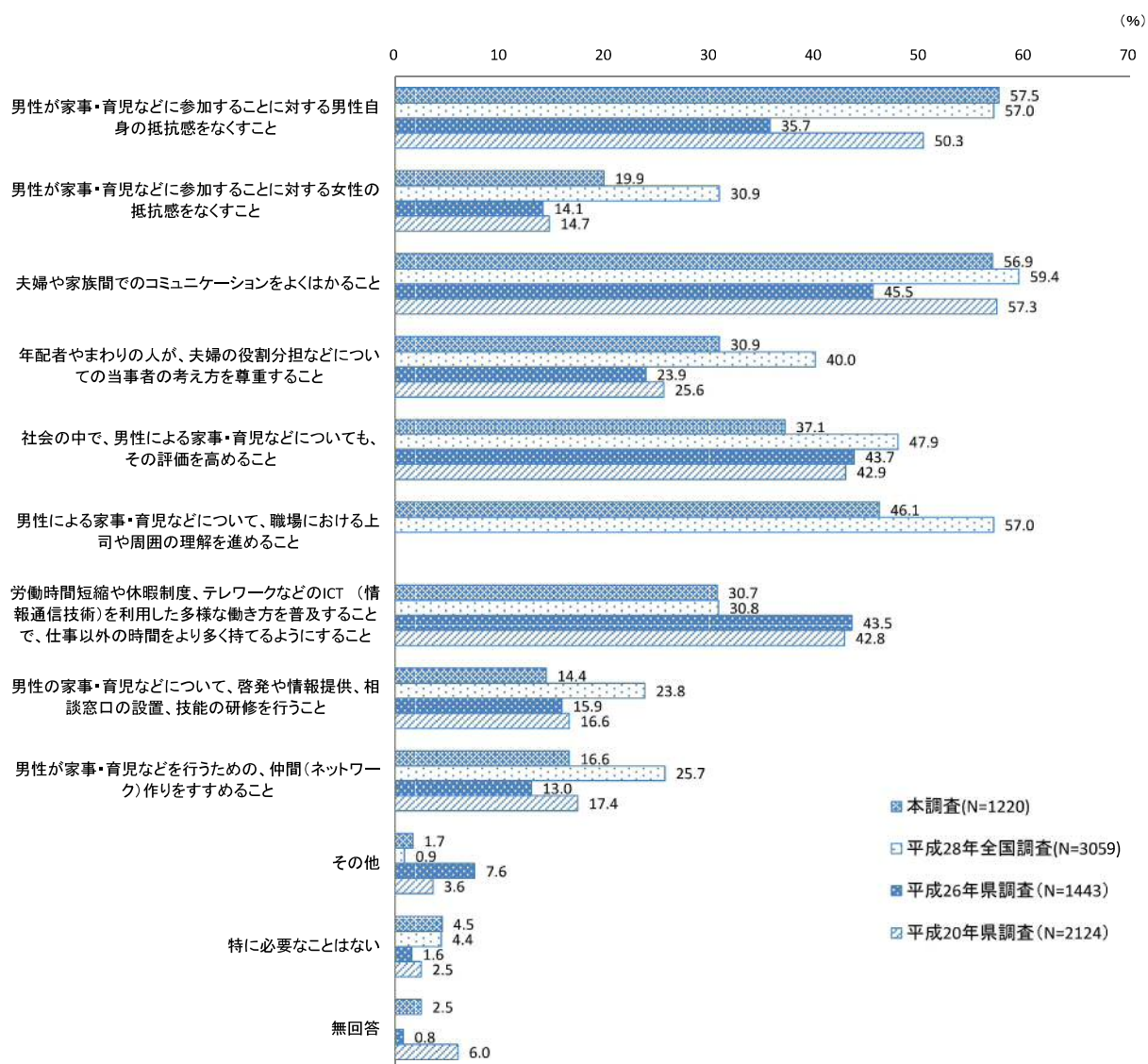


## 【他調査との比較】

平成26年県調査と比較すると、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」と回答した人の割合は高くなっている。一方、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT（情報通信技術）を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」と回答した人の割合は低くなっている。

なお、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」については、平成26年県調査、平成20年県調査では項目がなかった。

図20-3 男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと  
【他調査との比較】





## ＜地域活動について＞

### 2.1 自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと

「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」と回答した人の割合が49.8%と最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」(39.3%)、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」(34.7%)の順となっている。

#### 【性・年齢別】

性別に見ると、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」、「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること」と回答した人の割合は女性よりも男性で高くなっている。

年齢別にみると、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」と回答した人の割合は、比較的年齢層が若いほど高くなる傾向がみられる。

図2.1-1 自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと  
【総数、性別】

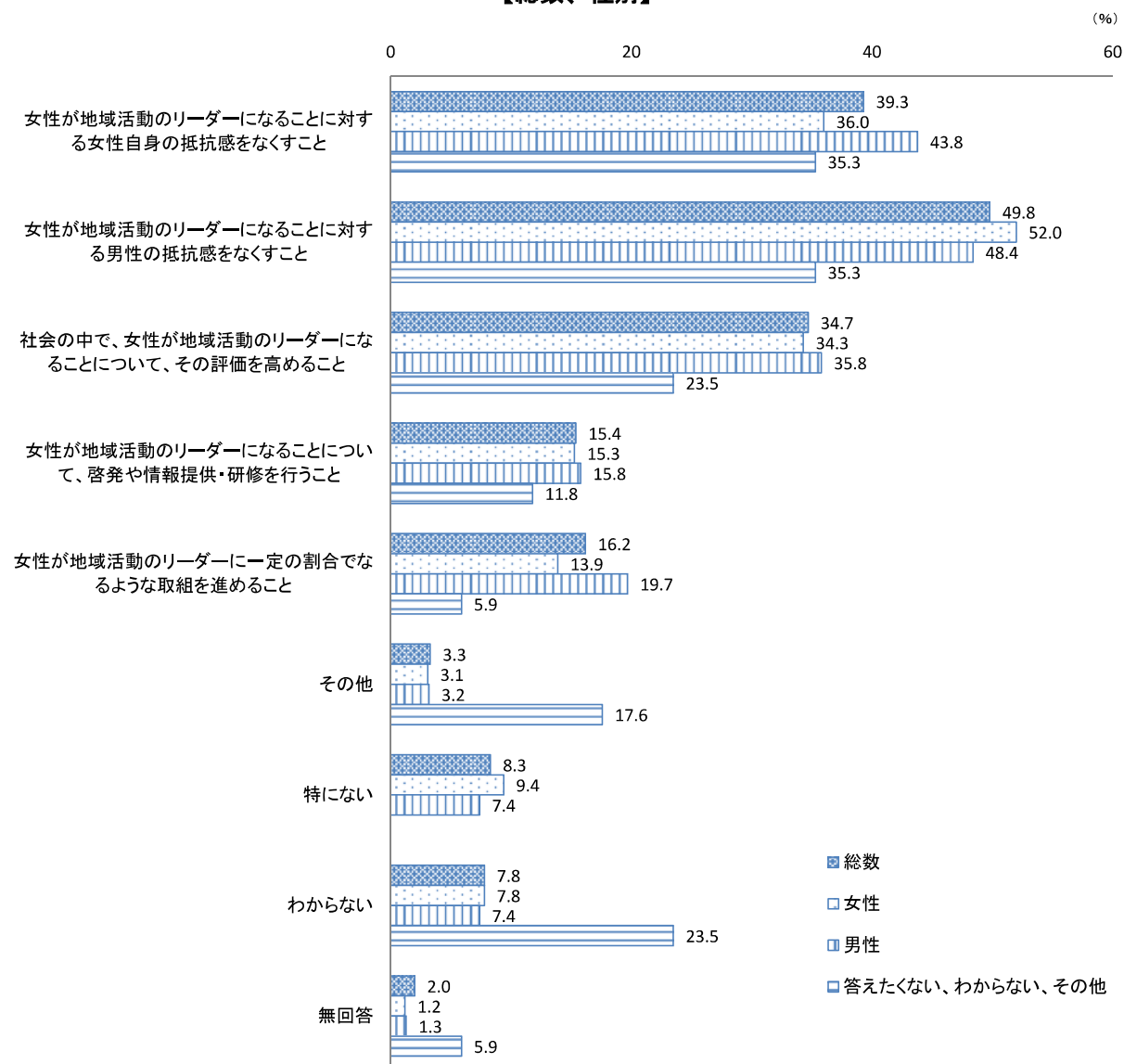
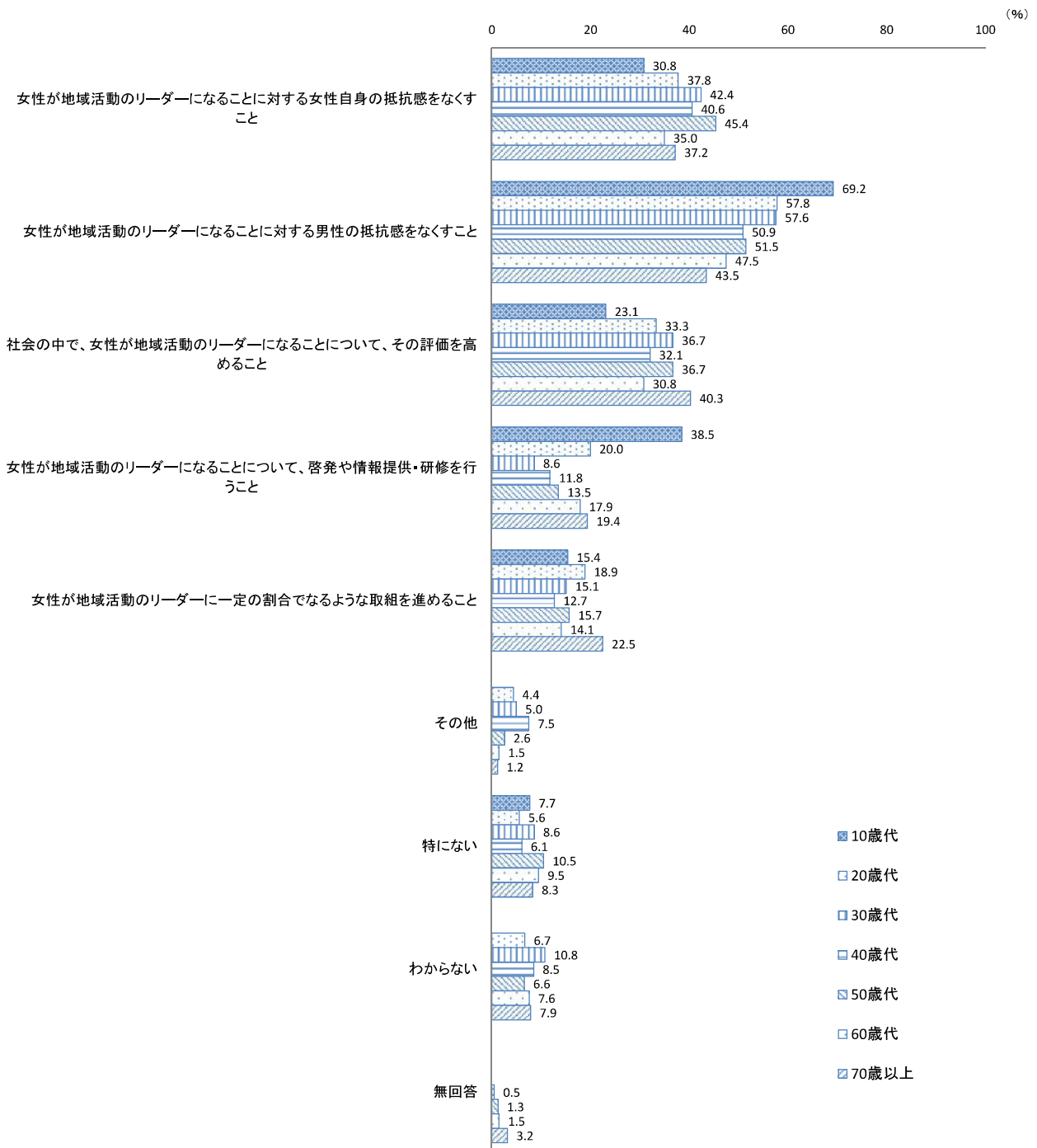


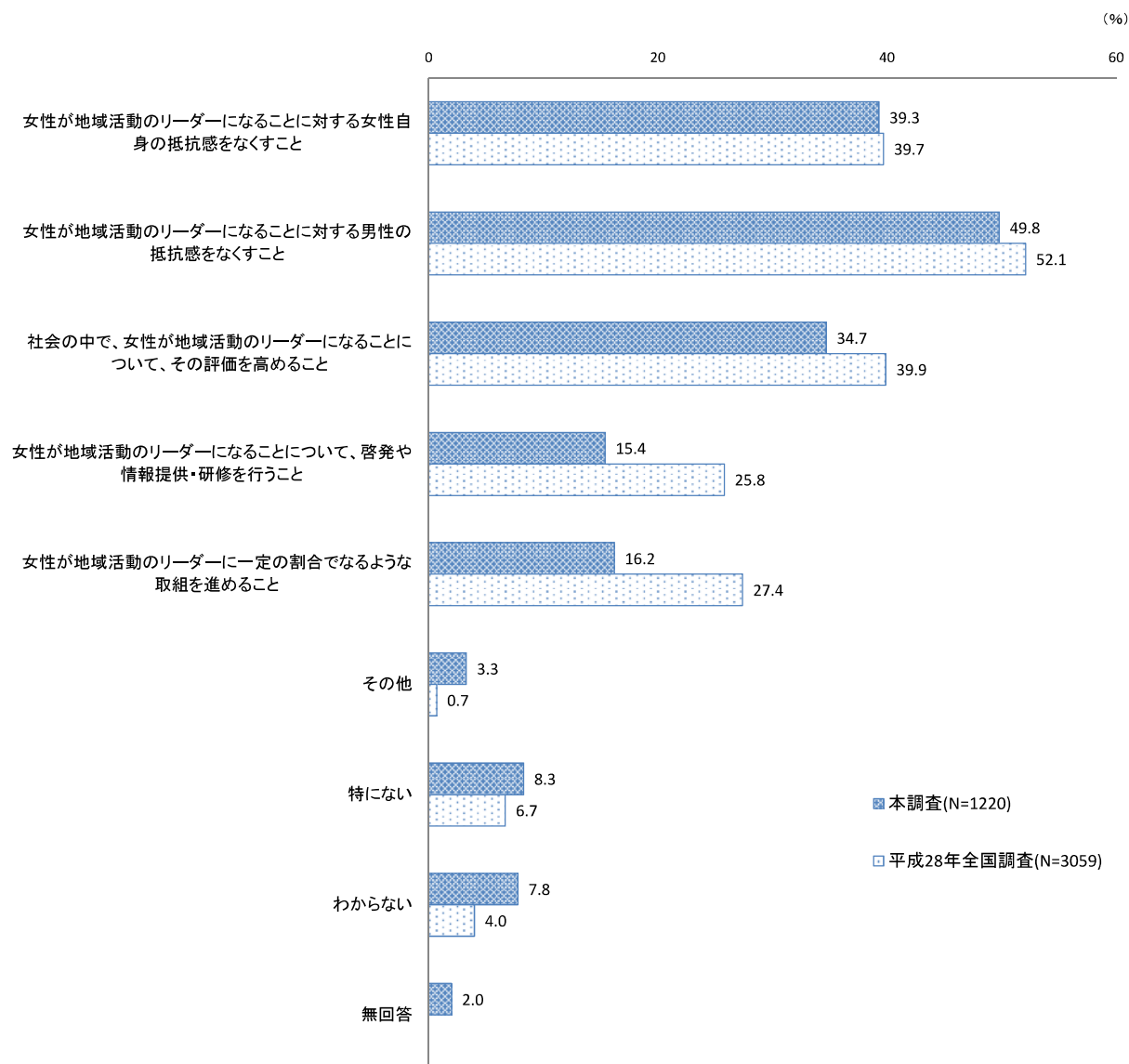
図21-2 自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと  
【年齢別】



## 【他調査との比較】

平成28年全国調査と比較すると、全ての項目で低くなっている。

図21-3 自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと  
【他調査との比較】



## <性的少数者やドメスティック・バイオレンス（DV）などについて>

### 2.2 性的少数者について

#### 「性的少数者に関する用語の認知度について」

「LGBT」という用語を知っていると回答した人の割合が80.1%と最も高く、次いで「カミングアウト」という用語を知っている（65.3%）、「性的少数者が雇用や健康、家族形態など、様々な面で困難な状況にあること」を知っている（51.0%）の順となっている。

#### 【性・年齢別】

性別に見ると、「カミングアウト」という用語を知っていると回答した人の割合は、男性（58.4%）よりも女性（72.7%）の方が高くなっている。また、男女とも認知度が低かった「SOGI」、「アウティング」という用語については、自身の性別を「答えたくない、わからない、その他」と回答した人で高くなる傾向があった。

年齢別に見ると、40歳代では「カミングアウト」という用語を知っている（84.0%）、「性的少数者が雇用や健康、家族形態など、様々な面で困難な状況にあること」を知っている（67.9%）と回答した人の割合が高くなっている。

図2.2-1 性的少数者について（用語の認知度）

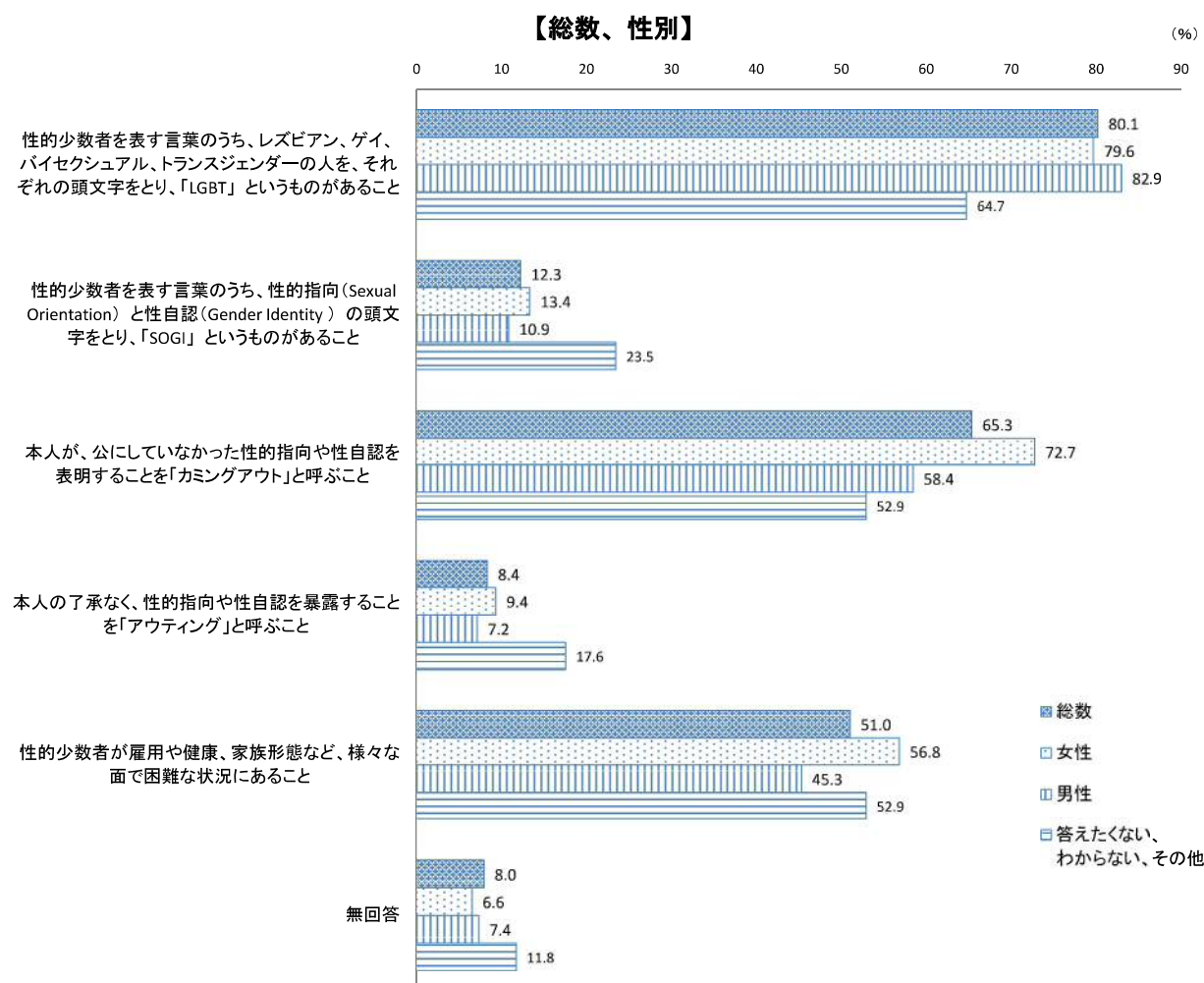
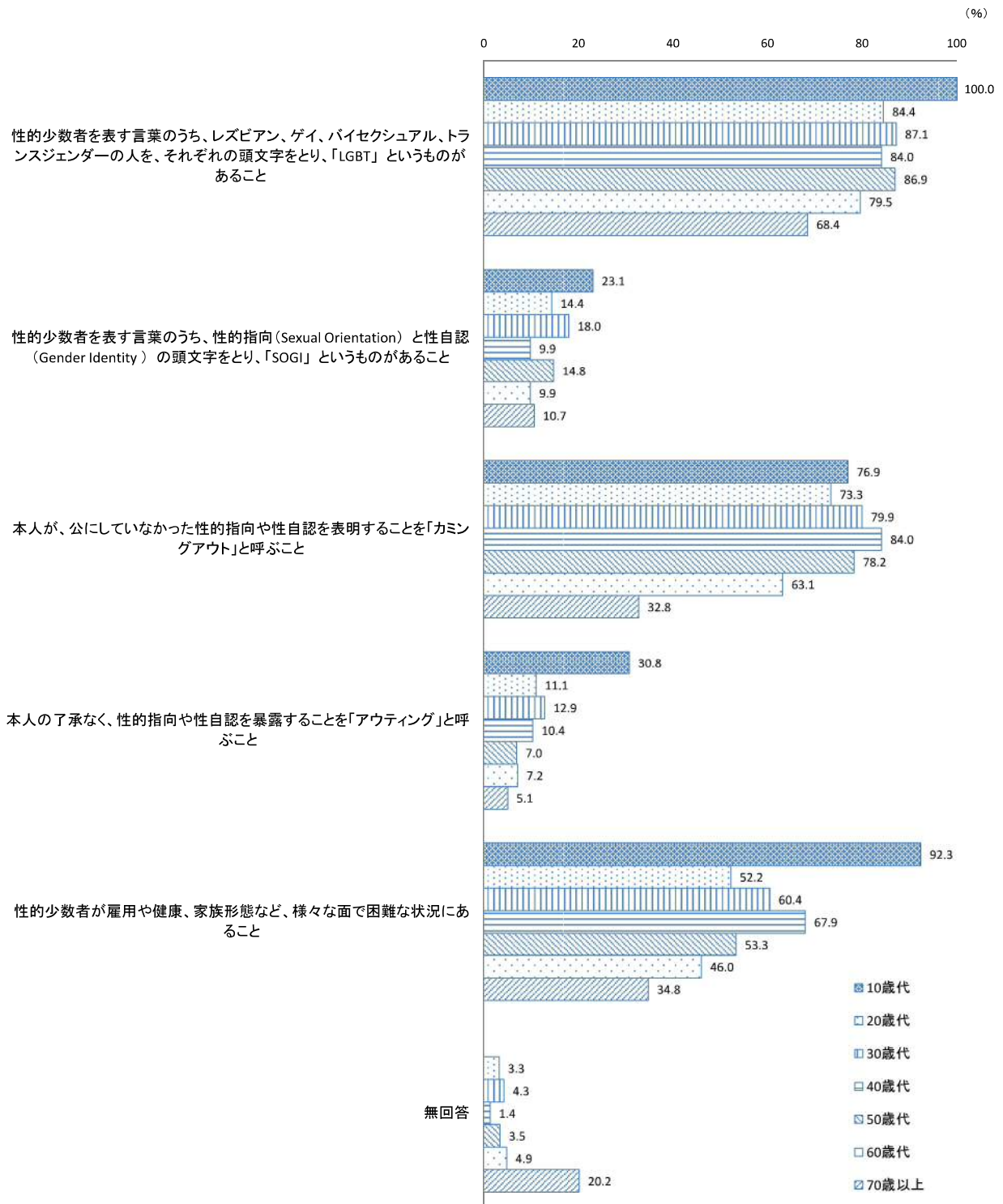


図 2 2 - 2 性的少数者について（用語の認知度）

【年齢別】



### 「身近（家族、友人など）な方が性的少数者だった場合の接し方」

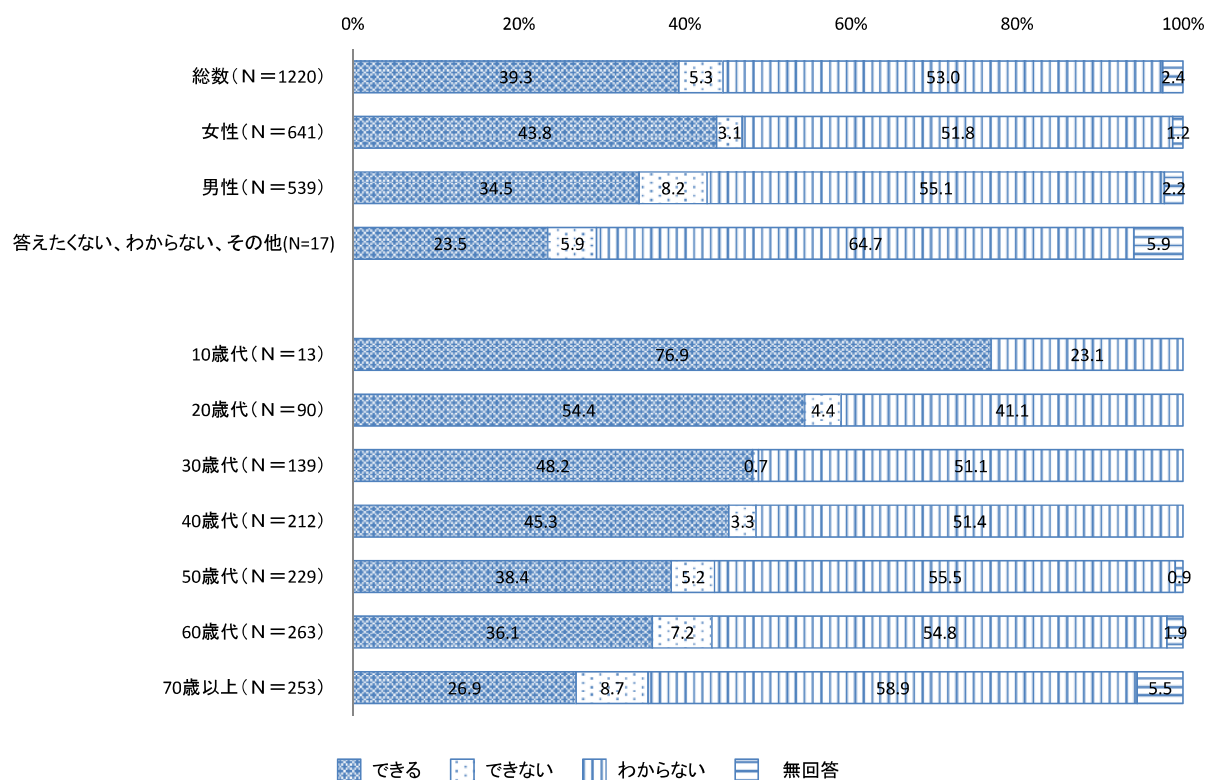
これまでと変わりなく接することができるかについて、「わからない」と回答した人の割合が 53.0%と最も高く、次いで「できる」が 39.3%、「できない」が 5.3%となっている。

性別に見ると、「できる」と回答した人の割合は男性（34.5%）より女性（43.8%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、20歳代は「できる」と回答した人の割合が 54.4%と、10歳代を除いた他の年代より高くなっている。

図 2 2 - 3 性的少数者について（身近な方が性的少数者だった場合の接し方）

【総数、性別、年齢別】



### 「学校や職場内の方が性的少数者だった場合の接し方」

これまでと変わりなく接することができるかについて、「できる」と回答した人の割合が 46.6%と最も高く、次いで「わからない」が 45.4%、「できない」が 5.3%となっている。

性別に見ると、「できる」と回答した人の割合は男性（39.5%）より女性（53.8%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、30歳代、40歳代は「できる」と回答した人の割合が、それぞれ 59.0%、58.0%と高くなっている。

図 2 2 - 4 性的少数者について（学校や職場内の方が性的少数者だった場合の接し方）

【総数、性別、年齢別】

